

『トラツグミとツグミ』

桑原 紀子

4月18日、夕方薄暗くなった頃、「ヒー、ヒー」と単調な音が聞こえてきました。

耳を澄ませていると、一定の間隔を空けて、また聞こえます。外に出てみると、近くの林から聞こえるようです。

しばらく聞いていると、同じ響きが続いています。これは人間の立てている音ではないな、と思い当たると、嬉しくて胸が高鳴りました。

トラツグミが鳴いているのです。能ヶ谷で聴くのは、ずいぶん久しぶりです。20年位前は、3月に入ると早朝、ブランコがきしむようなトラツグミの声で、目が覚めたものでした。

早朝や夕方時に薄暗い中から聞こえてくる声は、私には春を感じさせてくれましたが、昔の人は不吉な感じを受けたらしく、「鶺鴒(ヌエ)という想像上の妖怪の声と考え

たようです。頭は猿、手足は虎、尾は蛇の姿というのでから、不気味です。人間には不気味でも、トラツグミには恋

の季節のさえずりなのです。そう思うと、単調な「ヒーヒー」が、なんだか切ない声にも聞こえてきます。

翌日、近くの野原で、ツグミに会いました。

地面で虫を探しては、頭を少し上に向けてじっと静止しています。冬鳥として日本にきたツグミは、春にはシベリアなどに帰ります。

帰る頃は群れになって集まるそうですが、このツグミはたった一羽、いつ帰るのでしょうか。

双眼鏡でよく見ると、左足を少し怪我しているようでした。心配で、熱心に見ていたら、近くの枝まで飛びました。飛ぶ力は持っているようです。

一羽のトラツグミと、一羽のツグミ、心に残る出会いでした。



ツグミ